

# 山行報告書

京都田辺山友会

報告者 染矢つや子

山名	道後山・烏帽子山・比婆山		山行名	例会			
ルート	1日目：スキー場～岩樋山～道後山～大池～スキー場 2日目：県民の森～出雲峠～烏帽子山～比婆山～県民の森						
山行日	11月16日(土)～17日(日)		天候	16日：晴れ 17日：曇りのち小雨			
参加名	CL：染矢 SL：吉野 男性：中島 西上 佐坂(運転) 女性：西上 河野(会計) 上杉(会計) 合計：8名						
ルート概略図 (ルート軌跡 佐坂氏提供)			コースタイム				
16日 道後山		16日 道後山		時：分	17日 比婆山		
		道後山	着	11:35	県民の森	着	7:50
		スキー場	発	12:10		発	8:05
		月見ヶ丘	着	12:25	出雲峠	着	8:50
	発	12:40	発	8:20			
17日 比婆山		岩樋山	着	13:15	烏帽子山	着	10:00
			発	13:20		発	10:15
		道後山	着	13:50	比婆山	着	10:20
			発	14:00		発	10:25
		大池	着	14:15	門楯	着	10:30
		スキー場	着	15:10	県民の森	着	12:00
16日 昼食：道後スキー場			17日 昼食：県民の森				
<p>山行報告</p> <p>山行前後に年間予定になかった泊山行が計画され、予想通り参加者が少なく佐坂氏から「人が集まらなければレンタカーお世話します」とお声をかけて戴いていたのでお願いし8人乗りで実施。</p> <p>1日目は京田辺市を7時前に出発、予定時間に道後山スキー場到着。青空の下周囲の山々を見ながらの楽しい昼食。15分ほど登った月見ヶ丘駐車場は広くて綺麗。岩樋山・道後山と草原の尾根歩きに皆さん満足気のように気に入って戴けたようだ。大池に下りそのまま登りかえさずにグルッと一周ホテルのチェックインには早いので帝釈峠に寄り道をしてもらい1時間弱の散策を楽しむ。</p> <p>2日目は天気は悪い方に進んでいた。道路は霧で視界不良、40分弱で広島県民の森到着。ドライバーさんのおかげで予定通り8時にスタートできた。歩き始めは陽が射していたが30分程で太陽が雲に隠れ出雲峠ではうす暗く、烏帽子山では360度視界ゼロで霧の中。とりあえず大膳原方向にと下るがまったく何も見えない、この坂を登り返すには時間がかかると思い「吾妻山」は断念。烏帽子山で雨がポツポツ ザックカバー・雨具着用、行動食を取りしきり直して「比婆御稜」に向かう。頂上には「比婆山10合目」と書かれた木の標識が立っていた。落ち葉の絨毯を踏みながら下山雨が止んだ頃を見計らってコーヒーと行動食で身体を温める。数日前に降ったと思われる雪が所々に残っていた。大降りすることなく時折真っ赤に色づいた紅葉をみながら何事もなく県民の森に下山。この一帯の木々はまだ紅葉が残っていてそれなりに綺麗でした。見頃は10月末～11月初旬でした。高速に入る前に「道の駅」に立ち寄り。幸運にも「わんこそば」の大食い競争をやっていて60杯を食べた人が最高で表彰されていた。その残りを見物人に振る舞われ何杯か戴いた。</p> <p>雨に濡れたので入浴したい方もおられましたが、出来れば車をお店の営業時間内に返却出来れば翌日返す手間が省けると思い直接田辺に帰りました。佐坂DRさん安全運転ありがとうございました。</p>							

ヒヤリハット=ありません

## 感想文

### 道後山・比婆山に登って

西上 正

平成14年10月 第19回市民秋山登山を実施し、山友会員35名一般市民18名合計53名で登った山である。当時企画担当でお世話させてもらった懐かしい思い出の山である。この時も現地に着いた時より小雨に降られた。帝釈峡の雄橋（おんばし）。二日目の比婆山のブナの大樹、霧雨に差し込んでくる陽が幽玄の世界を醸し出してくれ、全員がその光景に大満足したことを思い出す。



<道後山 山頂>

二日目の朝、県民の森から眺める烏帽子山や比婆山がスッポリと雲に覆われている。あまり天気期待出来そうにない。リーダーを先頭に急いで出発する。何処でも財政難か建物類も山道も荒れている。予定通り出雲峠を経て烏帽子山に着く。霧の中で記念写真を撮り、平成14年の市民登山も天気の好天が期待出来ないとして霧の中で全員写真を撮ったことを思い出す。ここ烏帽子山には条溝石や烏帽子の形に似た巨石が数多く散見される所であるが、天候状況も悪く急いで大膳原に向かって出発する。しかしリーダーの判断で眺望も望めないこともあって吾妻山登坂を諦める。引き返した所に雨がポツポツと降りかけて来たので雨具を着用する。御陵に至るコースが幾通りもありわかりにくくなっている。



雨も大した降りではなく、ブナ林の中に神話伝説の伊邪那美命の稜墓とされる苔むした巨石が「イチイの古木」に囲まれて横たわっている。樹々の間から陽が差し込むと幻想的な光景が見られる所であるが今日は期待出来そうにない。門梅（もんとが）からの下山道を県民の森センターに向かう。

山頂では人を見かけなかったが、どろどろと下山してくる。天気が良ければ幽玄の世界を楽しめた筈であったが残念至極であった。11年振りに思い出の山に登れ大満足である。

リーダー・サブリーダーをはじめ同行の皆さん楽しい山行をありがとう！